



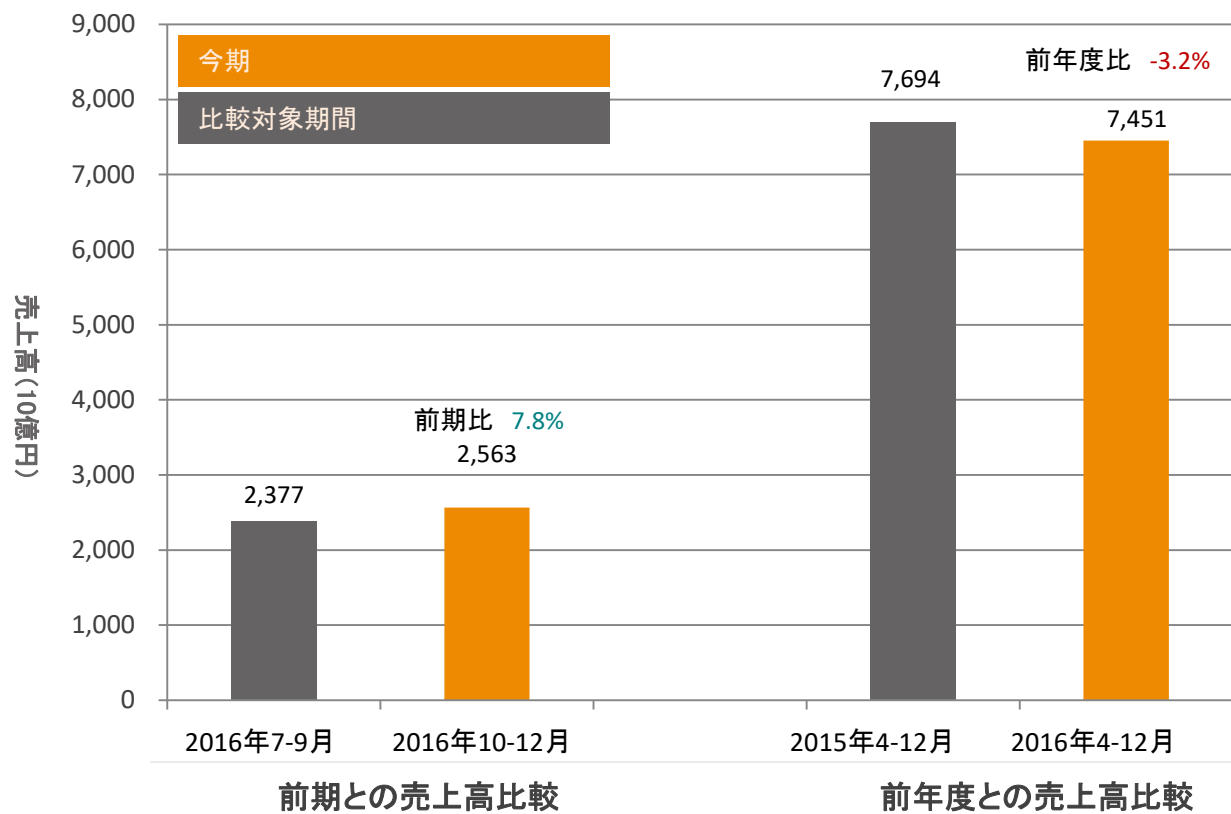
エンサイス スナップショットデータ

(薬価基準ベース)

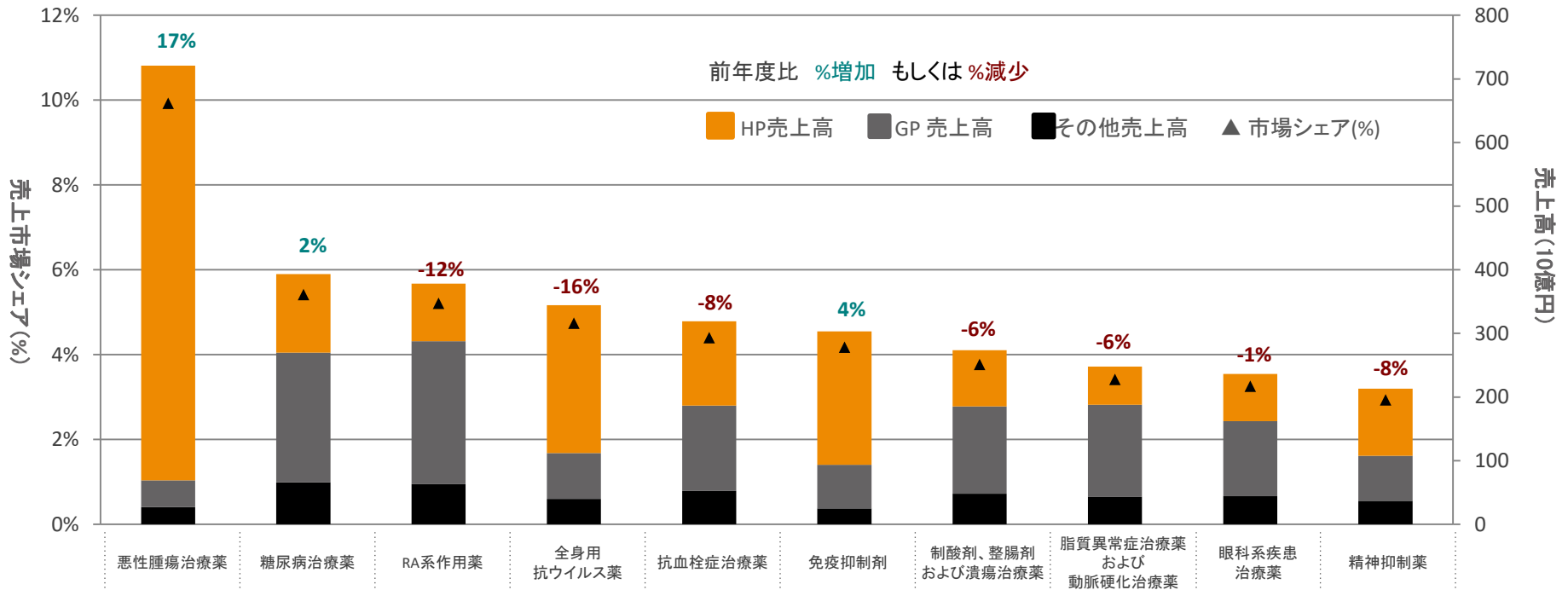
2016年度第1期～第3期
(2016年4月～2016年12月)

免責事項:本レポートは、当社が収集した医療用医薬品に関する情報を基礎としてエンサイスリサーチセンターで加工、編集又は推計を行ったものであり、
当社は本情報の正確性、網羅性、その他本レポートが一定の内容や品質を備えることを保証するものではありません。

過去との比較 (前期比と前年度比)



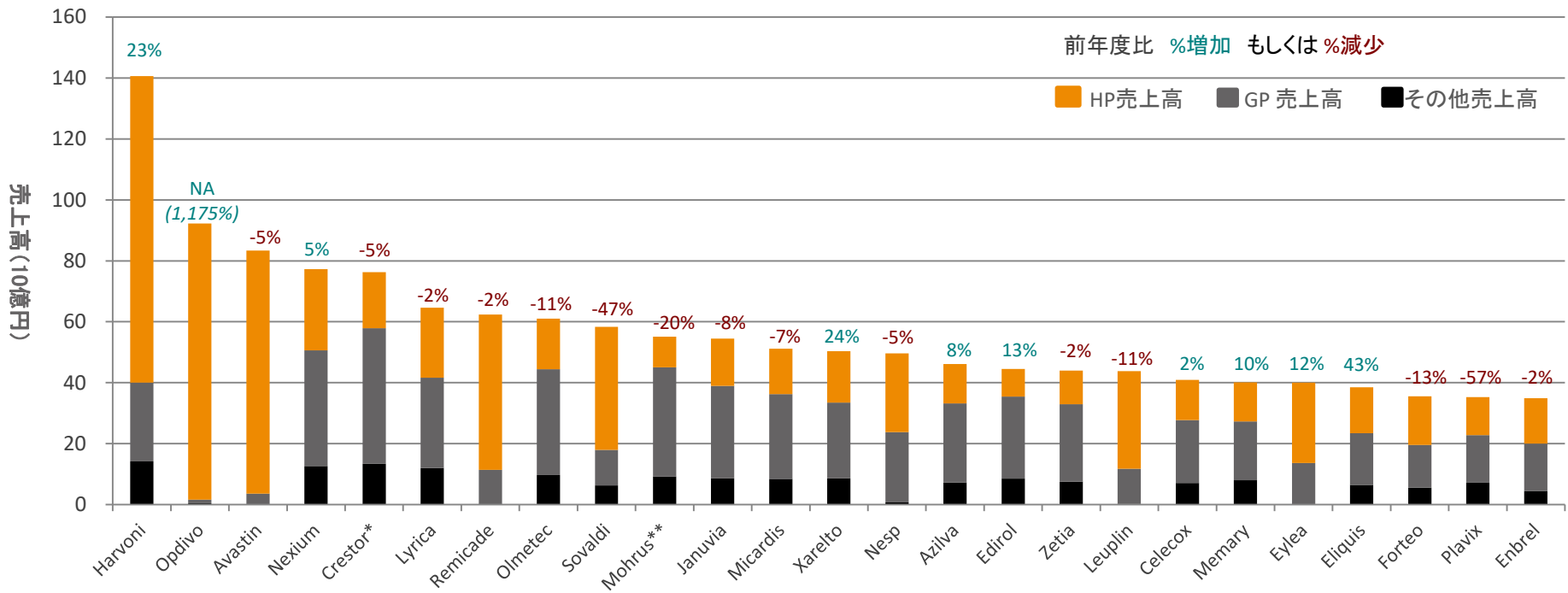
医療用医薬品売上上位10薬効分類



売上高チャネル定義: HP売上高: 100床以上の病院の院内処方と院外処方の合計 | GP売上高: 100床未満の病院や診療所の院内処方と院外処方の合計 | その他売上高: HP売上高、GP売上高以外の合計

- 上位10薬効分類の売上高が医療用医薬品全体の約47%を占め、3兆4,295億円である(前年度比2%減)。
- **悪性腫瘍治療薬(オンコロジー)**: 小野薬品工業のオプジーボ(922億円)の売上拡大により、前年度比約17%増で成長している。オプジーボを除くと、前年度比は約3%増にすぎない。その他には、イーライリリーのサイラムザ(232億円)や中外製薬のアレセンサ(114億円)が主要製品であった。悪性腫瘍治療薬は、オプジーボの効能追加やMSDのキイトルーダの上市、新薬開発段階にある複数の薬により成長が見込まれる。
- **抗ウイルス薬**: ソバルディ(前年度比524億円減)と Bristol-Myers Squibb のc型肝炎薬(ダクルインザとスンペプラで合計約700億円減)の売上減少により、前年度比16%の減少。
- **RA系作用薬(ARBが主流)**: 主要製品のカンデサルタンの特許切れによって同フランチャイズ(プロプレス、エカード、ユニシア)で約230億円減となった。他のARBも売上を鈍らせている。

医療用医薬品売上上位25製品

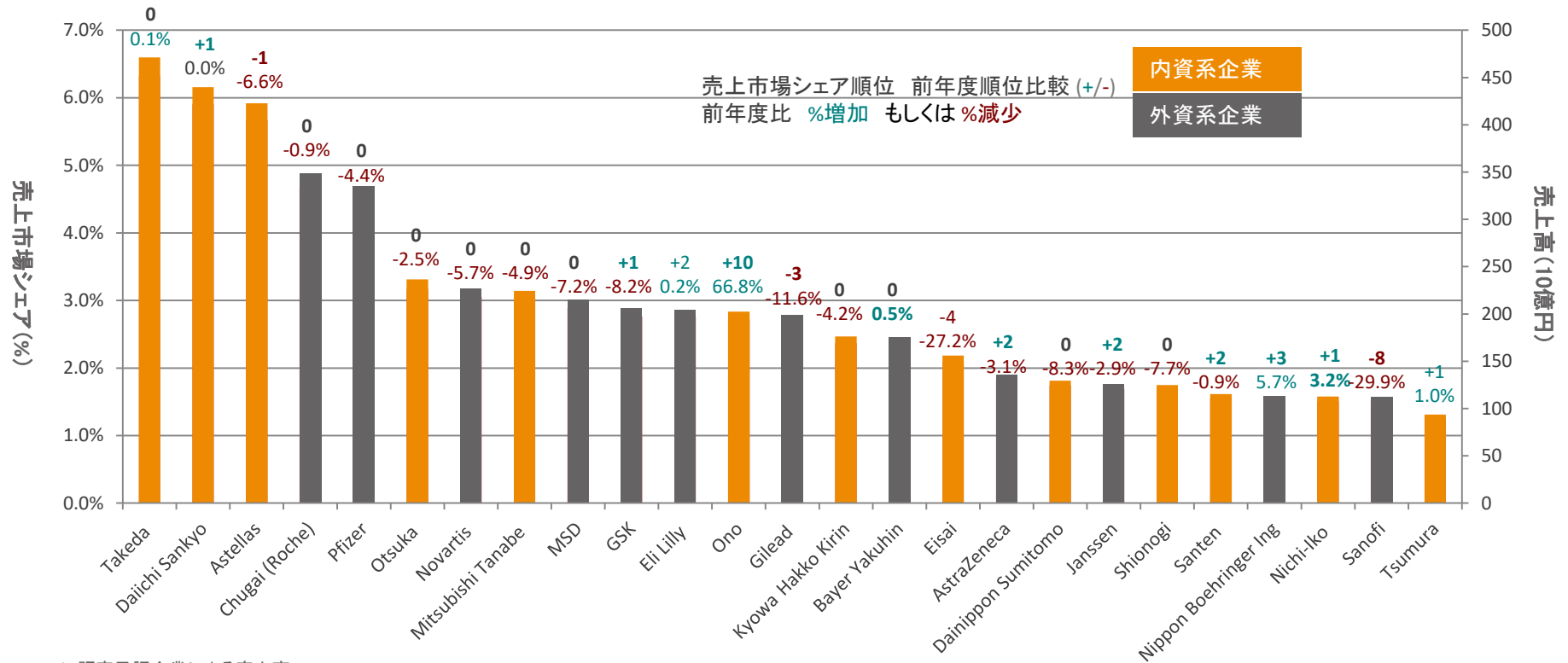


売上高チャネル定義: HP売上高: 100床以上の病院の院内処方と院外処方の合計 | GP売上高: 100床未満の病院や診療所の院内処方と院外処方の合計 | その他売上高: HP売上高、GP売上高以外の合計

* 合計売上高 (塩野義製薬とアストラゼネカ) ** 合計売上高 (久光製薬と祐徳薬品工業)

- 2016年度第3四半期 (2016年4月～12月) において、上位25製品の売上高が医療用医薬品全体の18.3%を占める (前年度比0.5ポイント減)。
- 同期間の医療用医薬品の総売上高は7兆4,512億円 (前年度比3.2%減) である。主な減少理由は2016年4月に行われた薬価改定と思われる。
- 主要成長医薬品:** ハーボニー (特例拡大再算定により成長は減速しつつある)、オプジーボ (導入期の高成長、複数の効能追加が準備中でもあり、勢いを維持している)、イグザレルトとエリキュース (特許切れのプラビックス市場に代わる第Xa因子阻害薬の主力製品)、これらは成長医薬品内のカギとなるだろう。
- 主要鈍化医薬品:** ソバルディ (約1年前に売上高のピークを迎えた、ハーボニーの上市に伴って停滞)とプラビックス (ジェネリック市場)、モーラス (主に薬価引き下げによる)、フォルテオ (販売数量は伸びているが、約19%の薬価引き下げが主な理由) が今年度売上が鈍化した主な製品である。

医療用医薬品売上上位25社*



* 販売承認企業による売上高

- 2016年度第3四半期 (2016年4月～12月)の上位25社の売上高は5兆3,050億円 (前年度比4.4%減)であり、国内医療用医薬品全体の売上高の71.2%を占める (前年度比約1.3ポイント減)。
- 上位25社中、内資系企業と外資系企業の売上高比率は、約50:50となり、内資系企業の売上高は2兆6,630億円 (前年度比1.9%増)、外資系企業の売上高は2兆6,420億円 (前年度比10%減)。
- 前年度比で目覚ましい躍進を見せたのが、オプジーボの堅調な伸びのある小野薬品工業。対して、前年度比で苦戦しているのが、ギリアド (ソバルディの売上減少により前年度10位から13位となった。ソバルディの売上は前年度比で47%減少し、約580億円となった)、サノフィ (プラビックスの特許期間切れが主な理由) とエーザイ (主力製品アリセプト、パリエット、メチコバルの売上減少が主な理由)である。